

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第13回】

放課後子ども教室の取り組みについて

秋田県由利本荘市立新山小学校長 佐藤 寛

新山小学校は、秋田県南西部の由利本荘市にある小学校(全校児童883名)です。平成17年度9月に「キピー新山いきいき教室」という名称で地域子ども教室がスタートしました。「キピー」とは「キッズピットイン」を省略して親しみやすくした呼び名です。平成19年4月からは、「放課後子ども教室」となりましたが、教室の呼び名は変えずに実施しています。安全管理員については、新山小学校の保護者や地域の方にこの事業の趣旨を説明し、賛同していただいた方14名に交代してついでにもらうようにしています。活動は、月曜日から金曜日の放課後に、全校児童を対象にして、主に新山小学校の「絵本の部屋」という低学年用の小さな図書室のような教室で家庭学習・絵本の読み聞かせ・編み物・折り紙・ぬり絵などの学習活動を、「なかよしホール」というプレハブ教室で鉄棒・竹馬・フラフープなどの軽い運動をしています。また、その他に、特に月曜日は「英語教室」、火曜日は「集まれアンニョハセヨ」、金曜日は「パソコン教室」を、保護者の承諾を得て登録制にして実施しています。英語の指導者は本校の卒業生、ハングル教室の指導者は本校の保護者、パソコン教室の指導者は本校に勤務された講師の先生にお願いしています。子どもたちは、授業では体験できない様々な事ができる「キピー教室」に行くのをとても楽しみにしております。安全管理人や指導員の方々も、子どもたちとふれあい、子どもたちの喜ぶ顔や笑顔に接して元気をもらっています。

放課後に開かれる本校の教室は、早く家に帰ってもだれも家にいないというような子どもたちの居場所づくりということでスタートしました。実際には、コーディネーターの方を中心にして、学校との調整を密にして、とてもよい形で実施されていると感じています。

参加している子どもたちも、放課後のこの教室をとても楽しみにしておりますし、安心して過ごせることや、いろんな話を聞いてもらえるということもあり、子どもたちの心の安定にもつながっているように感じます。

学校を開き、地域の方々や保護者の方々と共に子どもを育てていこうとする意識がこの事業を通してさらに高まってきているように感じます。

子どもは地域の宝です。多くの大人の目をかけながら、この事業がさらに根付いていくことを願っています。

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン) 第106号に掲載)